

横查情報月報



2022
5055

2月
5日

横浜市衛生研究所

令和4年2月号 目次

【検査結果】

魚介類中のPCB検査結果（令和3年度）	1
---------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報（令和4年1月）	2
-----------------------------	---

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和4年1月）	4
----------------------------	---

* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

魚介類中のPCB検査結果（令和3年度）

令和3年6月及び10月に中央卸売市場本場で収去した市内に流通する魚介類8種10検体について、PCBの検査を行いました。その結果、表に示すとおり全ての検体で不検出でした。

表 PCBの検査結果

食品の種類	検体数	検出件数	結果	暫定的規制値	
遠洋沖合魚介類	サンマ	1	0	不検出	0.5ppm
	ババガレイ	1	0	不検出	
	ヒラメ	2	0	不検出	
	マイワシ	2	0	不検出	
内海内湾魚介類	イサキ	1	0	不検出	3ppm
	イシモチ	1	0	不検出	
	ブリ	1	0	不検出	
	マアジ	1	0	不検出	
計	10	0			

(検出限界:0.01ppm)

《PCBについて》

PCBとは、ポリ塩化ビフェニル(Poly Chlorinated Biphenyl)の略称で、ポリ塩化ビフェニル化合物の総称です。理論的には209種類の異性体があり、ダイオキシン類に分類される異性体も含まれています。

PCBは化学的に安定で、不燃性、高絶縁性などの特徴を持つため、変圧器、コンデンサーなどの様々な用途に使用されてきましたが、現在は新たな製造が禁止されています。また、東京事業エリア(埼玉県、千葉県、東京都及び神奈川県)においては、高濃度PCB含有の変圧器・コンデンサー等は処分期間が令和4年3月31日までと決まっているほか、安定器及び汚染物等は令和5年3月31日まで、低濃度PCB廃棄物は令和9年3月31日までに処分する必要があります。

PCBは分解されにくく、脂肪に溶けやすい性質があるため、環境中に放出されたものは食物連鎖の上位に位置する生物に蓄積され、魚介類、肉類、乳製品などに汚染が広がりました。また、大気や海洋などの循環により拡散し、北極圏などPCBを使用していない地域のアザラシやクジラなどの生物にも高濃度に蓄積されていることがあり、地球規模での汚染が問題となっています。

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

衛生研究所WEBページ情報（令和4年1月）

横浜市衛生研究所ホームページ（衛生研究所WEBページ）は平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。

今回は、当WEBページにおける令和4年1月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数は市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。また、令和2年2月の集計より、新Webアクセス解析システム「Matomo」による集計となります。

1 利用状況

(1) アクセス件数

令和4年1月の総アクセス数は、203,954件でした。前月に比べ3.4%減少しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*80.7%、保健情報11.3%、検査情報月報2.0%、食品衛生1.9%、薬事1.8%、生活環境衛生0.9%でした。

* 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

1月のアクセス順位（表1）を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は、「トキソプラズマ症について」、2位は、「ぎょう虫（蟯虫）症について」、3位は、「横浜市感染症情報センタートップページ」でした。9位には、「死亡率・致死率（致命率）・死亡割合について」が入っています。

表1 令和4年1月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	トキソプラズマ症について	11,589
2	ぎょう虫（蟯虫）症について	9,032
3	横浜市感染症情報センタートップページ	7,852
4	B群レンサ球菌（GBS）感染症について	6,468
5	EBウイルスと伝染性単核症について	5,962
6	サイトメガロウイルス感染症について	5,748
7	粉ミルク（乳児用調整粉乳）を70℃以上のお湯で溶かすワケを知っていますか？	5,541
8	水痘（水疱瘡）・带状疱疹について	5,226
9	死亡率・致死率（致命率）・死亡割合について	5,221
10	クロストリジウム・ディフィシル感染症について	5,113

「トキソプラズマ症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ta/toxoplasma1.html>

「ぎょう虫（蟯虫）症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ka/gyou1.html>

「横浜市感染症情報センタートップページ」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/idsc.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ

令和4年1月の問い合わせは、2件でした(表2)。

表2 令和4年1月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数
伝染性単核球症について	1
乾燥甲状腺について	1

2 追加・更新記事

令和4年1月に追加・更新した主な記事は、1件でした(表3)。

表3 令和4年1月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
1月21日	感染症に気をつけよう(1月号)	掲載

【 感染症・疫学情報課 】

横浜市感染症発生動向調査報告（令和4年1月）

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症は第1週から急増し、第3週の報告数は7,491件と最多です。
- 無症状のE型肝炎の報告が増えています。
- 梅毒の報告が19件で、高い水準で続いています。

◇ 全数把握の対象

〈1月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	2件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
E型肝炎	15件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	6件
デング熱	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
レジオネラ症	3件	梅毒	19件
アメーバ赤痢	1件	播種性クリプトコックス症	1件
ウイルス性肝炎	1件	百日咳	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5件	-	-

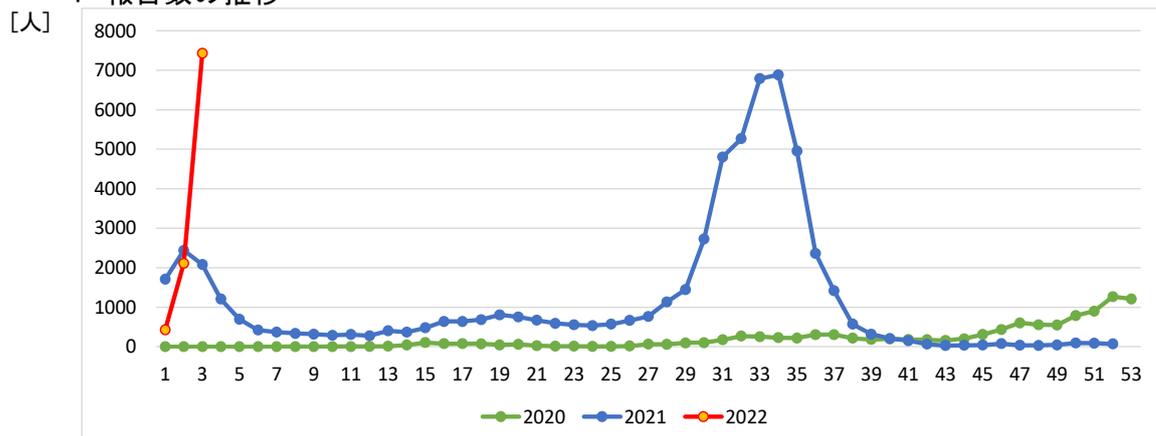
- 腸管出血性大腸菌感染症: O26が1件、O不明1件(無症状病原体保有者)の報告がありました。
- E型肝炎: 15件(うち無症状病原体保有者14件)の報告がありました。1件は感染経路等不明です。他14件は集団発生を疑い、現在原因調査中です。
- デング熱: インドネシアでの感染が推定される1件の報告がありました。
- レジオネラ症: 肺炎型3件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- ウイルス性肝炎: B型肝炎の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 5件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): AIDS3件、無症状病原体保有者3件の報告がありました。すべて男性で、うち5件が性的接触(同性間4件、異性間1件)による感染が推定されています。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 40歳代1件、70歳代1件(いずれもワクチン接種歴不明)の報告がありました。
- 梅毒: 男性16件女性3件、早期顕症梅毒Ⅰ期10件、早期顕症梅毒Ⅱ期7件、無症状病原体保有者1件、晩期顕症梅毒1件で、うち18件は性的接触(異性間14件、同性間2件、詳細不明2件)による感染が推定されています。
- 播種性クリプトコックス症: 70歳代の報告が1件ありました。感染経路等不明です。
- 百日咳: 20歳代1件(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。

◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

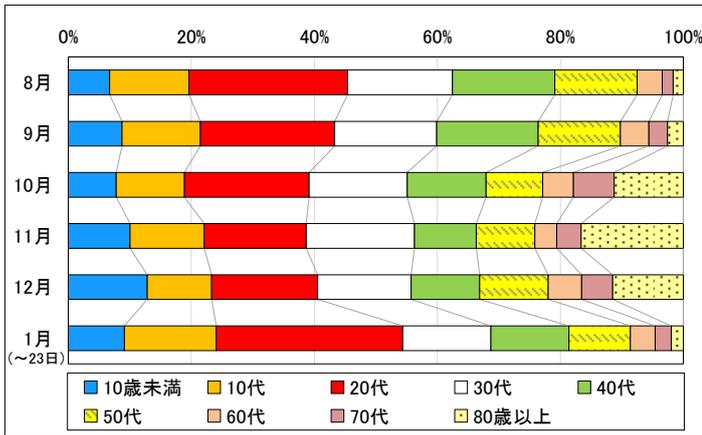
第51週～第3週に横浜市から報道発表のありました症例は10,188件でした。

◆横浜市 新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>

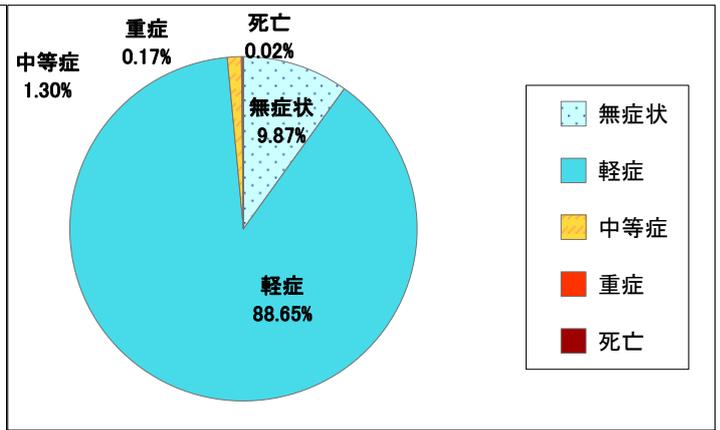
1 報告数の推移



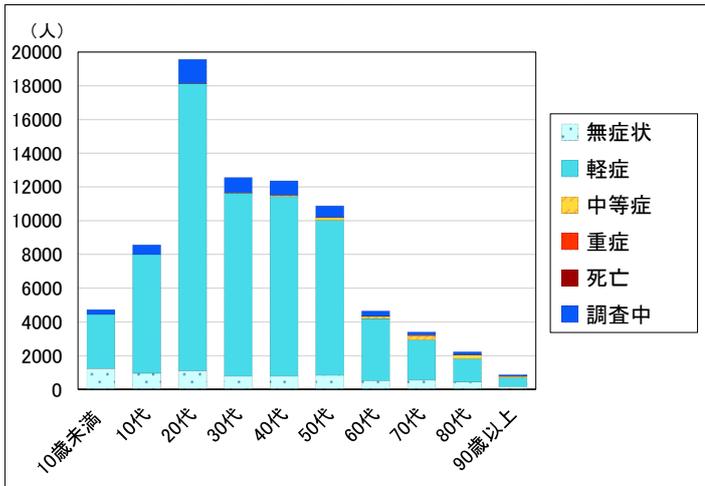
2 年齢別割合



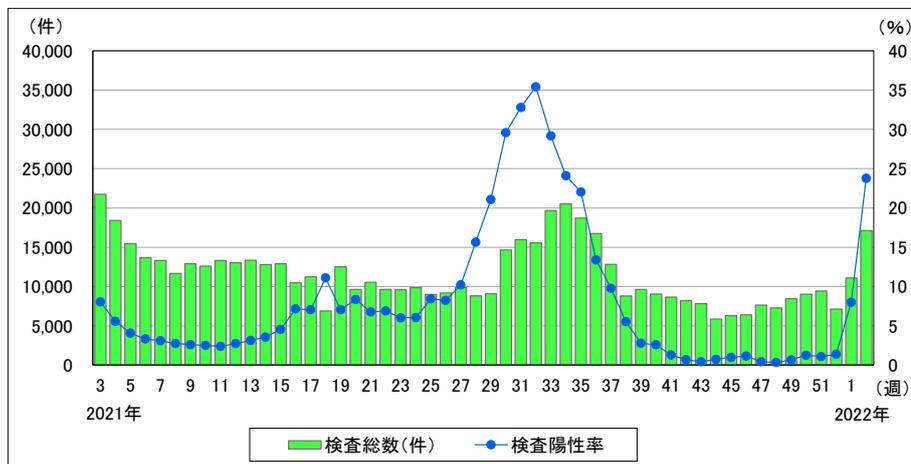
3 陽性確定時の症状の割合(2022年第3週まで)



4 陽性確定時の症状別人数(年代別)(2022年第3週まで)

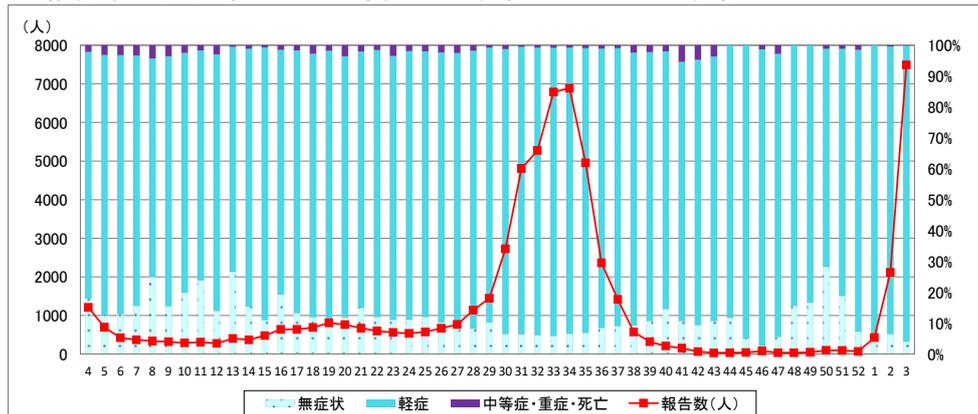


5 市内における新型コロナウイルス検査実施状況(2021年第3週~2022年第2週)



※ 検査総数: 医療機関(民間検査機関等)、接触者外来、市衛生研究所の検査数の合計

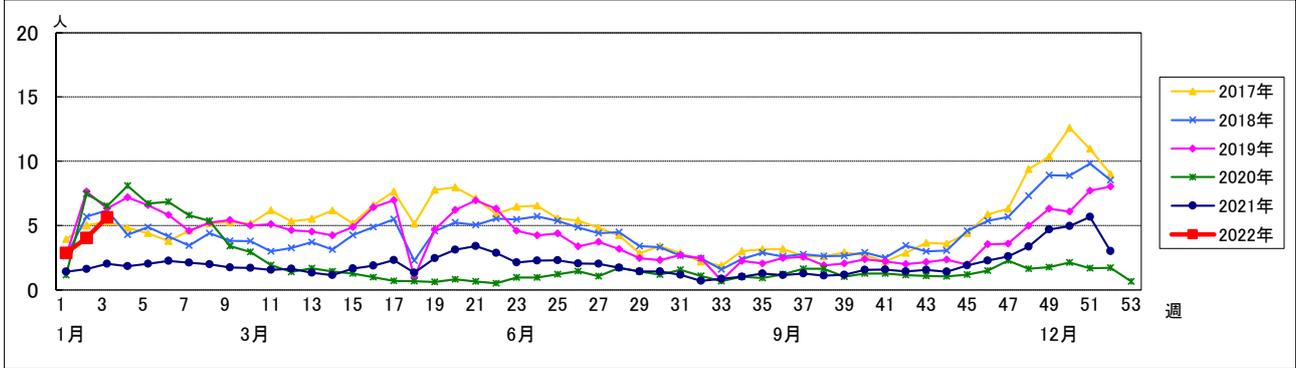
6 報告数と届出時点の重症度(2021年第4週~2022年第3週)



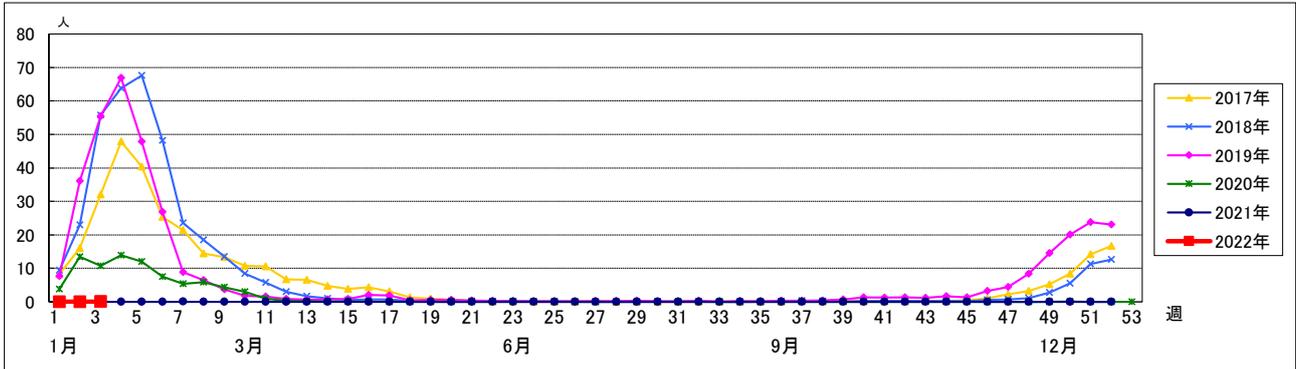
報告週対応表	
第51週	12月20日～12月26日
第52週	12月27日～1月2日
第1週	1月3日～1月9日
第2週	1月10日～1月16日
第3週	1月17日～1月23日

◇ 定点把握の対象

1 感染性胃腸炎: 昨年より高めの報告数で推移していて、第1週2.87、第2週4.03、第3週5.63と増加しています。



2 インフルエンザ: 昨年と同様に、例年より低めの報告数で推移しています。第2週0.01、第3週0.03となっています。



3 性感染症(12月)

性器クラミジア感染症	男性: 29件	女性: 13件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 4件	女性: 5件
尖圭コンジローマ	男性: 8件	女性: 1件	淋菌感染症	男性: 18件	女性: 5件

4 基幹定点週報

	第51週	第52週	第1週	第2週	第3週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.33	0.33	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(12月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	10件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

1月期(2021年第51週～2022年第3週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点38件、内科定点2件、眼科定点2件、基幹定点4件でした。

2月7日現在、表に示したインフルエンザウイルスAH3型とアデノウイルス2型の分離株と、新型コロナウイルス、ライノウイルス、アデノウイルス2型、水痘・帯状疱疹ウイルス、アストロウイルスの遺伝子が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果 (2021年第51週～2022年第3週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	感 染 性 胃 腸 炎	肺 炎	水 痘
新型コロナウイルス	- 2				
アデノウイルス 2型	1 -		- 1		
インフルエンザウイルス AH3型				1 -	
ライノウイルス		- 2			
水痘・帯状疱疹ウイルス					- 1
アストロウイルス			- 1		
合 計	1 2	- 2	- 2	1 -	- 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

1月期(2021年第51週～2022年第3週)の「菌株同定」検査依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌1件、侵襲性肺炎球菌1件、B群溶血性レンサ球菌1件、黄色ブドウ球菌1件でした。非定点からはカルバペネム耐性腸内細菌科細菌1件、非結核性抗酸菌3件、黄色ブドウ球菌1件でした。保健所からは腸管出血性大腸菌5件、劇症型溶血性レンサ球菌3件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌3件でした。

「分離同定」検査依頼は、基幹定点からクリプトコックス3件、非定点から菌同定(遺伝子)1件、保健所からレジオネラ2件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は、小児科定点から消化器系病原菌1件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査 (2021年第51週～2022年第3週)

菌株同定		項目	検体数	血清型等	
医療機関	基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)	
		侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 3型 (1)	
		B群溶血性レンサ球菌	1	B群溶血性レンサ球菌 II型 (1)	
		黄色ブドウ球菌	1	<i>Staphylococcus aureus</i> (1)	
非定点		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)	
		非結核性抗酸菌 (NTM)	3	<i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>abscesses</i> (1)、 <i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>massiliense</i> (2)	
		黄色ブドウ球菌	1	<i>Staphylococcus aureus</i> (1)	
保健所		腸管出血性大腸菌	5	O156 : H25 VT1 (3)、O28ac : H25 VT1 (1)、 O121 : H19 VT2 (1)	
		劇症型溶血性レンサ球菌	3	A群溶血性レンサ球菌 UT (1)、G群溶血性レンサ球菌 (2)	
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	3	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (2)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)	
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等	
医療機関	基幹定点	ハトの糞	クリプトコックス	3	不検出 (3)
	非定点	肝臓(パラフィンブロック)	菌同定(遺伝子)	1	<i>Clostridium septicum</i> (1)
保健所	喀痰	レジオネラ属菌	2	不検出 (2)	
小児サーベイランス	材料	項目	検体数	同定、血清型等	
小児科定点	直腸ぬぐい液	消化器系病原菌	1	消化器系病原菌不検出 (1)	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】